

令和8年度 消防局X方針について

■ 局区X方針とは

(概要)

局長・区長等を中心に局・区の経営的課題を自己点検し、変革課題とその解決に向け当該年度の取組事項を定めたもの。

(目的)

- ・局長級職員のリーダーシップ発揮による自律的な変革の推進
- ・局内職員への変革マインドの意識づけ
- ・外部公表による市政変革に関する市民への理解浸透と検討過程の透明性の確保

なお、取組みの進捗によって、抽象的な課題がより具体化した場合等で、課題の追加・変更が必要となれば、進捗等の公表にあわせて、適宜X方針を修正する。

■ 消防局X方針について

(1) 課題数 全4件

課題領域	Aレベル	Bレベル	Cレベル
課題数	3件	—	1件
政策分野	・救急 ・人材確保／地域防災 ・人材育成／組織運営	—	消防体制整備

Aレベル : 行政サービスにおける現場の改善等にかかる課題

B・Cレベル : 政策的な変革課題 (Cはより広域、将来を見据え、全庁横断的な視点を要する等)

(2) 主な課題・取組内容等

・課題A 増加する救急需要の対策 (資料1のP3)

- 高齢化の進展に伴い、救急出動件数が高い水準で推移している。これにより、救急車が現場に到着する時間や、傷病者を病院に収容する時間が延伸しており、重症傷病者の生存率低下が危惧されている。特に1時間あたりの日中(9時～18時)の出動件数は、夜間の1.8倍に上る。
- 令和8年度は、局内横断的な検討体制を構築し、日中と夜間の出動件数の差といった需要動向を踏まえ、日勤救急隊の運用拡大や部隊配置の見直しに向けた検討を進める。

・課題C 持続可能な消防体制の構築 (資料1のP7)

- 人口動態や需要構造の変化の中、将来にわたり安定した消防サービスを提供し続けるためには、人員・組織や車両・予算の在り方を見直し、「持続可能な消防体制」を構築する必要がある。
- 令和8年度は、局内横断的な検討体制を構築して中長期的なリソース再配分(消防隊から救急隊への振り替えや車両機能の集約化等)を協議するとともに、先進技術(AI等)を検証・導入する仕組みの検討を行い、次年度以降の体制見直しに向けた方向性を整理する。